

令和5年度 第1回刈谷市ごみ減量化推進会議議事録

日 時	令和5年7月18日（金）午後1時30分～午後3時00分
場 所	刈谷市役所7階 大会議室C
出 席 者	ごみ減量化推進会議委員 12名出席／18名（別添委員名簿の通り） 産業環境部 伊藤部長 ごみ減量推進課 熊澤課長、平出課長補佐、奥村係長、横田、三浦
議 題 等	<p>(1) ごみ減量化の進捗状況と施策について</p> <p>(2) 一般廃棄物処理基本計画について</p> <p>ア 前年度作成の計画策定の趣旨から現状と課題について</p> <p>イ 骨子案について</p> <p>ウ 市民アンケートの結果について</p> <p>エ 策定のスケジュールについて</p> <p>(3) その他</p> <p>・ごみ収集車の火災事故について</p>
<p>会議の説明等【事務局 熊澤課長】</p> <p>・・・配布資料の確認。</p> <p>資料3枚目の「刈谷市ごみ減量化推進会議設置要綱」に沿って説明。本日は委員18名中12名が出席。過半数の出席であるため会議として成立する。</p> <p>事務局、会長・副会長の紹介。</p> <p>以後、榊原会長を議長とし、次第に沿って進行。</p> <p>1 あいさつ</p> <p>(1) 会長あいさつ</p> <p>【会長 榊原委員】</p> <p>：この「ごみ減量化推進会議」は、刈谷市のごみ減量化に向けた刈谷市の活動について話し合うものである。委員の任期は、令和4年度～令和5年度であるが、一部、委員の交代があり、この4月から新しく7名の方が委員に就任した。</p> <p>この会議は循環型社会の実現に向け、またとりわけ今期は来年度から始まる新しい計画の策定に向け、事業者・行政・市民が一体となってごみ減量、リサイクル推進の実現を果たすための役割を担うものである。忌憚のない意見交換を行う場としていきたいと考えている。</p> <p>2 議題【事務局 平出】</p> <p>(1) ごみ減量化の進捗状況と施策について</p> <p>・・・資料1に沿い、ごみ減量化に関連する施策の報告。</p> <p><意見等></p> <p>【消費者生活学校 作田委員】</p> <p>：資料1 9ページ 資源回収所設置費の補助について</p> <p>地区で行っている資源回収の品目はどのように決まっているか。以前、電池を廃棄しようと最寄りの回収所を利用したとき、乾電池を捨てる場所が無かった。</p> <p>【事務局 三浦】</p> <p>：資料9ページに記載のある回収所は、それぞれの自治会により設置・運営されているものである。回収し、事業者へ売却することでそれぞれの自治会の収益としてもらっている。したがって、それぞれの回収品目についても自治会で決めてもらっているものである。</p> <p>電池に関しては、資源物として売却するものではなく有害ごみに当たるため、市</p>	

が回収を行うものである。市が設置する回収専用箱を設置させてもらっている場所もあるが、基本的には扱いは別となる。

ほか、質問及び意見なし。

出席する全委員から議題（１）に対し承認を得る。

（２）一般廃棄物処理基本計画について

ア 前年度作成の計画策定の趣旨から現状と課題について

- ・・・資料②に沿い、今年度に策定する刈谷市一般廃棄物処理基本計画のうち、昨年度に作成した第１章～第３章、第５章について説明。

イ 骨子案について

- ・・・続けて資料③に沿い、刈谷市一般廃棄物処理基本計画の全体の構成について説明。とりわけ第４章、第６章について解説。

<意見等>

【あいち中央農業協同組合 鈴木委員】

：先般、ヒラテ産業が収集した食品残渣を堆肥に変え販売する事業を始めたが、それらは市のごみ減量施策の一環であるのか、その場合、実績はこの計画の中のどこに含まれるのか。

【事務局 三浦】

：ヒラテ産業による当該事業は、ヒラテ産業が各事業所と個別に契約し収集を行った中で集められた食糧残渣で行っているものであるため、市の事業とは全く別のものであり、この計画の中には含まれていない。

【会長 榊原委員】

：たとえば刈谷市女性の会連絡協議会が行っている段ボールコンポストや、かりや消費者生活学校のフードドライブの取り組みなどによる各家庭のごみの減量化の効果は、市の収集実績の集計のうえでは数値化しづらく、その効果を十分に伝えきれていないかもしれない。
市民にアピールする方法に、更なる工夫を凝らしてもらうことを市に期待する。

ウ 市民アンケートの結果について

- ・・・資料④に沿い、昨年度末に実施した市民アンケートの概要および単純集計の結果について紹介。
アンケートは、令和５年２月１日現在で刈谷市の住民基本台帳に登録のある１８歳以上の市民の中から、各年代別の男女を６中学校区で均等になるように１,０００人抽出し、対象者として実施。今年３月２４日を回答期限とし、３月１０日に市民へ発送いたしました。回答件数は４２５件。
郵送による調査であったためか、１０代・２０代からの回答が比較的少なかった。今後同様のアンケートを実施する際には、Webでの回答も受け付けるようにする。

<意見等>

【会長 榊原委員】

：市民全体から回答を得るということに主眼を置くことも必要であるが、今後長く刈谷市で生活を営むことが期待され、また一方で、比較的環境意識が低い傾向にある若い世代に向けた積極的なアプローチも重要であると思われる。今回のアンケートは郵送による方法のみであったが、今後、市が発行するアンケートやガイドブック、ごみ出しカレンダーなどにQRコードを施し、情報へのアクセサビリティを上げることで、より若い世代の関心を離さない工夫を期待する。

<その他、全体を通しての意見等>

【会長 榊原委員】

：排水処理に関連して、全国的に話題になりつつある件を紹介すると、分解されにくい医薬品成分を多く含んだし尿が、従来の設備で処理しきれず、今後、高度処理機能を持つ設備を備えなければならなくなるおそれがある、という話がある。トイレ排水や医薬品の利用は止められるものではなく、当然刈谷市でも無関係の話ではないため、そのような事態になった際の対応を準備しておく必要がある。また、排水処理に関連して話をすると、2019年に長野県で、水害の影響で一時的に下水道処理施設の機能が失われてしまったということがあった。昨今、ゲリラ豪雨などの現象も少なくないが、水害などに限らず、大規模な災害が起こった際には一時的な多量の一般廃棄物や、排水処理への対応が必ず必要になる。他課や地域、近隣自治体との連携の方策を、新しい計画の中に具体的に盛り込むことを求めるものではないが、ぜひ備えは持っておいてほしい。

【消費者生活学校 作田委員】

：さきほど会長から紹介があったが、かりや消費者生活学校の活動のなかで、食品ロス対策として年に2回、フードドライブ事業を行っている。その活動は、食品の受け入れの期間を設け、いわばイベント的に行っているものである。現状では受け入れ期間が非常に短いため市民の参画の機会が限られてしまうため、常設のフードドライブ事業が実現すると、食品ロス削減が非常に進むはずである。ぜひ検討してほしい。

【会長 榊原委員】

：食品の管理等についてはクリアすべき課題も多かろうが、もし実現できるなら食品ロス削減に寄与するものと思われる。施策のひとつとして、検討してもらいたい。

エ 策定のスケジュールについて

- ・・・資料5に沿い、今後のスケジュールについて説明。
次回第2回の会議は10月4日(水)に開催。一般廃棄物処理基本計画の素案を示し、第4章および第6章について諮る。第3回は12月21日(木)に開催予定。

質問及び意見なし。

出席する全委員から議題(2)に対し承認を得る。

3 その他【事務局 平出】

- ・・・資料6に沿って、今年度起こった収集作業中の火災事案について紹介。
引き続き、適切な分別ならびに啓発へ協力を依頼する。

質問及び意見なし。

出席する全委員から議題(2)に対し承認を得る。

ほか、会議全体を通して質問及び意見なしと確認。

次回会議の連絡【事務局 熊澤課長】

- ・・・次回会議は10月4日(水)午後2時を予定